

生涯学習通信

「生涯学習に関する市民意識調査報告書」より

生涯学習振興のため、男女二十歳以上の市民の方(一四三七名)を対象に調査を実施しました。調査報告書が作成されましたので、その一部をご紹介します。

また、調査報告書は居住地区、男女、年代、職業、居住歴の区別集計や考察、意見・希望など詳細にわたる内容です。市立図書館、各地域「コミュニティセンター」などに置いてありますので、どうぞご自由にご覧ください。

「生涯学習推進会議普及・啓発部会」

①過去1年間の学習などの活動の有無

市民の約半数(四九・五%)が、過去一年間に何らかの活動を行っています。しかし、対象区別にみますと相違があり、学習機会の工夫が必要と思われます。

②過去1年間に行った活動

スポーツ活動(五九・六%)が最も多くなっていますが、二位の芸術・芸能(二〇・八%)以下は多様化し、対象区分別でみますと、それぞれの特徴があらわれています。

③活動を行った場所

各種スポーツ施設が多くなっていますが、多様化の傾向もみられます。スポーツ施設の充実と共に、各種学習施設、集会施設の充実も望まれます。

④活動を行った目的や動機

教養・趣味、生きがい、健康・体力づくり、人間関係などを求めている傾向があらわれています。反面、生活や職業、老後の生活、社会生活などが少ない点を考える必要があると思われます。

⑤活動ができない理由

「忙しい」(五六・九%)が多く、学ぶ価値をどう位置づけるかが問われるようです。次いで「きっかけがない」(二七・〇%)、「知る機会がない」(二三・三%)が多く、情報の提供が重要視されます。

⑥生涯学習のイメージ

「生涯を通して自分の意志で行う」(四八・九%)という意識が高く、社会生活にかかわる意識は比較的少ないようです。

⑦学び続けることの必要性

「学び続けること」の必要性「強く感じている」(四〇・〇%)、「どちらかといえば感じている」(三九・九%)が多くを占めています。その他の二〇・一%の数値について考える必要があると思われます。

⑧必要と感じている理由

生きがい、生活の目標、教養、老後の生活、社会に即応、仕事や生活のための、自由時間の活用、趣味の充実の順で続きます。

